



# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

報道関係各位

## 「UDF（ユニバーサルデザインフード）」生産額 583 億円

- ◆前年対比は生産量 99.1%・生産額 103.5%
- ◆製品登録数は 2,287 アイテム

### <リリースサマリー>

#### ◆「UDF（ユニバーサルデザインフード）」生産額 583 億円

##### 業務用冷凍品が伸長、市販用は価格改定影響か

日本介護食品協議会（会長：森佳光（キューピー(株) グループコミュニケーション担当）、会員企業 88 社）は、会員企業を対象とした令和 7（2025）年の UDF（ユニバーサルデザインフード）生産統計を取りまとめた。

集計の結果、生産量は 71,381 トン（前年比 99.1%）、生産額は 583 億円（同 103.5%）となり、生産量は微減となった一方、生産額は前年を上回った。

##### ➤ 市販用は減少、業務用は増加

市販用は生産量 40,031 トン（前年比 93.0%）と減少した一方、業務用は 31,350 トン（同 108.1%）と増加した。

市販用では、原材料価格や物流費上昇に伴う価格改定による買い控えが影響したものとみられる。

一方、業務用では、人手不足を背景とした給食現場の効率化需要や、セントラルキッチン化、完調品需要の高まりなどを背景に、冷凍タイプ製品を中心に伸長した。

##### ➤ 業務用冷凍品が引き続き拡大

冷凍タイプ全体は、生産量 21,075 トン（前年比 109.1%）、生産額 230 億円（同 111.5%）となった。

特に業務用では、冷凍品が業務用全体の 66.5%を占めており、施設・病院給食向け需要の拡大が続いている。

##### ➤ 区分 4「かまなくてよい」が伸長

UDF4 区分では、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」、「かまなくてよい（区分 4）」が数量増となった。特に区分 4 は、生産量 105.6%、生産額 111.5%と伸長した。

##### ➤ 診療報酬改定も追い風に

令和 8 年度診療報酬改定では、「嚥下調整食」が特別食加算対象に追加された。

今後、医療・介護施設において、均質な物性や食べやすさを有する UDF 製品の活用拡大が期待される。

#### 【協議会コメント】

本会では、在宅介護分野における UDF 製品の流通チャネル拡大や、給食現場の省力化ニーズの高まりを背景に、UDF 市場は今後も重要性を増していくものと考えている。

#### ◆製品登録数は 2,287 アイテム

UDF の製品は、5 月末現在 2,287 品目が登録されている（前年同期から 132 品目増）。

\* 詳細については 3 ページ目以降をご参照ください。ホームページからもご覧いただけます。 <https://www.udf.jp/>



ユニバーサルデザインフード

# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



ユニバーサルデザインフード



みなさちゃん

令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

## 「日本介護食品協議会」について ～介護食品の規格を統一～

我が国は、すでに「超高齢社会」となっていますが、以前より食品メーカーでは「介護」シーンでの利用を考慮した食品の開発や販売を行ってきました。しかし、当初の「介護食品」はメーカーによって製品の規格や表示方法が異なるため、利用者の不便が指摘されていました。

そこで、これら利用者の不便を解消するため、食品メーカーを中心に、素材や容器など多くの企業が集まり、『日本介護食品協議会』を設立（平成 14（2002）年 4 月）し、介護食品の「食べやすさ」「使いやすさ」などについて「統一規格」を制定（平成 15（2003）年 6 月）しました。協議会ではその規格に適合する製品をすべての人が食べやすいことから「UDF（ユニバーサルデザインフード）」とし、以降、次々と UDF ロゴマークを表示した製品が誕生、現在もその数は増加基調で推移しています（令和 8 年（2026）年 5 月末現在 2,287 品目を登録）。

協議会では、「UDF（ユニバーサルデザインフード）」をすべての利用者に安心して使っていただくために、関連する情報の発信や普及啓発活動、自主規格の整備などを行い介護食品業界の健全な発展を目指すとともに、みなさまの食べる楽しみを通じて QOL（クオリティーオブライフ・生活の質）の向上に貢献していきたいと考えています。

\* 会員企業数は、令和 8 年（2026）年 6 月 1 日現在 88 社となっています。

## 「UDF（ユニバーサルデザインフード）」とは

日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。その種類も様々で、レトルト食品や冷凍食品などの調理加工食品をはじめ、飲み物やお食事にとろみをつける「とろみ調整食品」などがあります。

UDF（ユニバーサルデザインフード）のパッケージには、必ず UDF マークが記載されています。これは日本介護食品協議会が制定した規格※に適合する製品だけについているマークです。お客さまが選びやすいよう、どのメーカーの製品にも「かたさ」や「粘度」の規格により分類された 4 つの区分については「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」を、とろみ調整食品については「とろみ調整」を UDF マークとともに表示しています。これらの表示を目安にご利用に適した製品を安心して選んでいただけます。

まずはパッケージの UDF マークをご覧ください。

※協議会会員である食品メーカーはこの規格に基づき製品を製造・販売しています。

\* UDF（ユニバーサルデザインフード）区分表等については 9 ページをご参照下さい。

### 【問合せ先】

日本介護食品協議会 事務局  
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 10-2  
翔和神田ビル 3 階  
電話 03-5256-4804 F A X 03-5256-4805



ユニバーサルデザインフード



ユニバーサルデザインフード

# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



かいごちゃん



ユニバーサルデザインフード



ささえちゃん

令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

<以下、詳細版>

## 「UDF (ユニバーサルデザインフード)」生産額 583 億円

◆前年対比は生産量 99.1%・生産額 103.5%

### ■【概況】

今般、日本介護食品協議会（会長：森 佳光（キューピー(株) グループコミュニケーション担当）、会員企業数 88 社）は、会員企業を対象に令和 7（2025）年（暦年）の UDF 生産統計を集計した。この結果、生産量 71,381 トン、生産額 58,337 百万円で前年対比はそれぞれ 99.1%、103.5%と生産量で微減、生産額で増加した。生産量の減少については、冷凍食品中心の業務用で好調であったものの、レトルトタイプ中心の市販用の減少に起因した。

令和 7（2025）年についても、前年に引き続き原材料仕入価格や、諸コストの高騰に起因した製品価格の値上げが続いた。この中、生産量の減少、生産金額の増加となったが、レトルト食品や冷凍品を展開する UDF 各区分製品を所有するメーカー個別の所感によると、価格高騰による買い控えの影響を受けたとしたものが市販用、業務用ともに多かったとみられる。市販用ではこの傾向が顕著な様子であったが、一方で、業務用ではコメ価格の高騰による代替品への一時的な移行なども理由として挙げられたものの、逆に取引が増えたメーカーも多かったようであった。特に、業務用の給食シーンでは、人手不足に起因したセントラルキッチンや完調品への移行が進みつつあるが、UDF についても調理済み製品として一部で需要が高まったとみられる。この結果を表したものが販売先別の集計である。市販用の数量が前年対比 93.0%に対して、業務用は 108.1%であった。

多くの企業で価格改定が行われたところだが、例えばとろみ調整のような製品はユーザーにとっては代替品のない必需品レベルの製品と思われる。昨今、メーカーの努力により販売チャネルは多様化し、在宅介護分野における UDF 製品の流通チャネルは拡大傾向にあり、本会では今回の市販用減少について、価格改定影響を含む一時的要因もあるとみている。

また、増加した業務用に関する話題として、令和 8 年度診療報酬改定において特別食加算として嚥下調整食が新たに加算の対象となった。今後、嚥下調整食分類（学会分類 2021）を利用する医療機関や介護施設において、均質な物性や食べやすさの面で説明のしやすい UDF の活用が一層進むことが期待できる。

### ■【区分別】

区分別集計の全体（市販用・業務用合計）では、「容易にかめる（区分 1）」が生産量 46,493 トン、生産額 26,410 百万円で、前年対比各 99.6%、102.9%、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」が同 6,182 トン、5,959 百万円、同 100.9%、107.6%、「舌でつぶせる（区分 3）」が同 10,264 トン、13,930 百万円、同 92.2%、100.3%、「かまなくてよい（区分 4）」が同 6,983 トン、8,140 百万円、同 105.6%、111.5%、「とろみ調整食品」が 1,459 トン、3,898 百万円、同 96.5%、98.5%と、UDF の 4 区分のうち、数量が増加したのは区分 2 と区分 4 であった。金額では、数量が減少した区分 1、区分 3 も含めすべて増加した。

本リリースに提示した集計表からは見ることはできないが、市販用、業務用をそれぞれ区分別にみると、前者では区分 2 のみ数量金額とも増加しており、後者では区分 1 と区分 4 において数量が増加した。また、業務用に



ユニバーサルデザインフード

# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



ユニバーサルデザインフード



はるえちゃん

令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

についてはすべての区分で金額が増加した。

各区分について、市販用と業務用の比率（数量ベース）を見てみると、区分 1 は順に 75.6%、24.4%と市販用が多い。前回の集計では 79.7%、20.3%であったが、業務用が数値を伸ばした。同区分の市販用は「その他常温タイプ」（パン製品）が多い。業務用については「冷凍タイプ」の比率が高いが、近年では市販用と同様に「その他常温タイプ」（パン製品）が増加している。

区分 2 は市販用 16.4%、業務用 83.6%となっている。業務用はほぼ「冷凍タイプ」で占められる。市販用では「レトルトタイプ」が最も多いが、他にも「乾燥タイプ」（アルファ化米など）、「冷凍タイプ」を含んでいる。今回の集計では冷凍タイプが増加した。

区分 3 をみると、市販用 11.7%、業務用 88.2%であった。市販用は「レトルトタイプ」と「その他常温タイプ」で占められるが、56.3%がレトルトタイプである。「その他常温タイプ」はゼリー類が主体。

区分 4 では市販用 30.7%、業務用 69.3%であった。市販用については区分 3 同様「レトルトタイプ」と「その他常温タイプ」で構成される。業務用については「その他常温タイプ」（ゼリー飲料類）が中心で 62.4%を占めるが、「冷凍タイプ」に新製品の投入があり比率が高まった。冷凍タイプについては、給食シーンでの厨房の人手不足やエネルギー・栄養に配慮した製品が多くなっているとみられる。

「とろみ調整食品」では、前回と同様に数量、金額とも市販用で増加、業務用で減少した。同分野は特別用途食品（消費者庁）「とろみ調整用食品」制度への移行が進んでいることも背景にある。近年の傾向から業務用において特別用途食品の取得が進行しているとみられる。

各区分の生産量構成比率（カッコは生産額）をみると、「容易にかめる（区分 1）」から「とろみ調整食品」まで順に 65.1%（45.3%）、8.7%（10.2%）、14.4%（23.9%）、9.8%（14.0%）、2.0%（6.7%）となっている。前回との比較では、区分 1、区分 3、区分 4 の比率が上昇した。

## ■【タイプ別】

「乾燥タイプ」（とろみ調整食品をメインにアルファ化米、加水して成型する粉末製品などを含む）が生産量 1,577 トン、生産額 4,377 百万円で、前年対比はそれぞれ 95.1%、97.8%（全体からの構成比は生産量・生産額各 2.2%・7.5%）であった。また、とろみ調整食品の比率をみると生産量で 92.5%、生産額で 89.0%であった。「冷凍タイプ」は、同 21,075 トン、同 23,060 百万円、同 109.1%、111.5%（同 29.5%・39.5%）、「常温タイプ」は、同 48,729 トン、同 30,901 百万円、同 95.4%、99.1%となっている（同 68.3%・53.0%）。

また、「常温タイプ」では、業務用において「レトルトタイプ」、「その他常温タイプ」の生産量、金額が増加したが、逆にこれらのタイプは市販用で減少となった。これは、概況にも記したように、値上げによる利用者の買い控えを受けたとみられる他、一部メーカーにて製品供給が滞ったことにも起因したものと思われる。ちなみに、「レトルトタイプ」は市販用が約 8 割を占める。カップゼリー、ゼリー飲料等ゼリー製品については「その他常温タイプ」として集計している。「その他常温タイプ」には市販用、業務用とも他にパン製品を含んでいる。また、カップゼリー製品についてはその多くが業務用に仕向けられている。なお、「常温タイプ」にはチルド流通帯の製品も含めて集計しているが、これらは増加傾向で推移している。



ユニバーサルデザインフード

# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



ユニバーサルデザインフード



はさえちゃん

令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

## ■【販売先別】

市販用、業務用について各生産量と販売額をみると、常温品が中心の市販用においては生産量 40,031 トン、生産額 23,558 百万円で、前年対比はそれぞれ 93.0%、96.5%と減少した。施設や病院の給食等に利用される業務用では 31,350 トン、34,780 百万円で同 108.1%、108.8%とそれぞれ増加した。市販用・業務用比率は 56.1% (前回 59.7%)、43.9% (同 40.3%) と、近年では業務用比率が増大の傾向となっている (生産量ベース)。

販売先別の各区分構成比率 (生産量ベース) をみると、市販用は「容易にかめる (区分 1)」～「とろみ調整食品」の順に 87.8% (前回 86.4%)、2.53% (同 2.2%)、3.0% (同 3.3%)、5.4% (同 7.0%)、1.2% (同 1.1%) であった。業務用では、同様に 36.1% (同 32.7%)、16.5% (同 17.9%)、28.9% (同 33.5%)、15.4% (同 12.5%)、3.1% (同 3.5%) であった。

市販用のうちレトルト製品をみると、前年対比は 78.6% (生産量ベース) と前年より減少となった。市販用レトルト製品の区分別前年対比みると (生産量ベース)、「容易にかめる (区分 1)」が 81.2%、「歯ぐきでつぶせる (区分 2)」は 98.7%、「舌でつぶせる (区分 3)」が 92.7%、「かまなくてよい (区分 4)」61.1%とそれぞれ減少した。これは先述のとおり、値上げによる利用者の買い控えを受けたと思われる他、一部メーカーにて製品供給が滞ったことにも起因したとみられる。市販用は販売先としてドラッグストア、総合スーパー、通販での取り扱いが主となる。

業務用では冷凍品が 66.5%を占めており、前年対比 108.5% (生産量ベース) と引き続き増加した。業務用冷凍品の区分別前年対比みると (生産量ベース)、「容易にかめる (区分 1)」が 122.3%、「歯ぐきでつぶせる (区分 2)」が 99.7%、「舌でつぶせる (区分 3)」が 89.4%、「かまなくてよい (区分 4)」が 267.0%と、区分 1 の増加の他、区分 4 が急増している。これは、先述の通り同区分に新製品の投入があったことによる。

## ◆製品登録数は 2,287 アイテム

UDF (ユニバーサルデザインフード) の製品は、現在 2,287 品目が登録されている (前年同期から 132 品目増)。協議会加盟企業数は増加の一途であり、利用者の期待に応えるべく各社それぞれの技術を用いて「おいしさ」「食べやすさ」を追求した多くの製品を提供している。今後も UDF 登録製品は増加基調で推移することが見込まれる。



# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

## 【UDF 製品登録状況】

	区分 1 容易にかめる	区分 2 歯くきでつぶせる	区分 3 舌でつぶせる	区分 4 かまなくてよい	とろみ調整	UDF 拡張規格	合計
乾燥食品	0	16	4	0	64	5	89
冷凍食品	334	291	783	60	0	0	1468
常温食品	231	49	272	177	1	0	730
合計	565	356	1,059	237	65	5	2,287

(令和 8 (2026) 年 5 月末現在)



日本介護食品協議会公式キャラクター 「かいごちゃん」「ささえちゃん」



# 日本介護食品協議会 ニュースリリース



令和8(2026)年6月吉日  
日本介護食品協議会



## ユニバーサルデザインフード生産統計

日本介護食品協議会

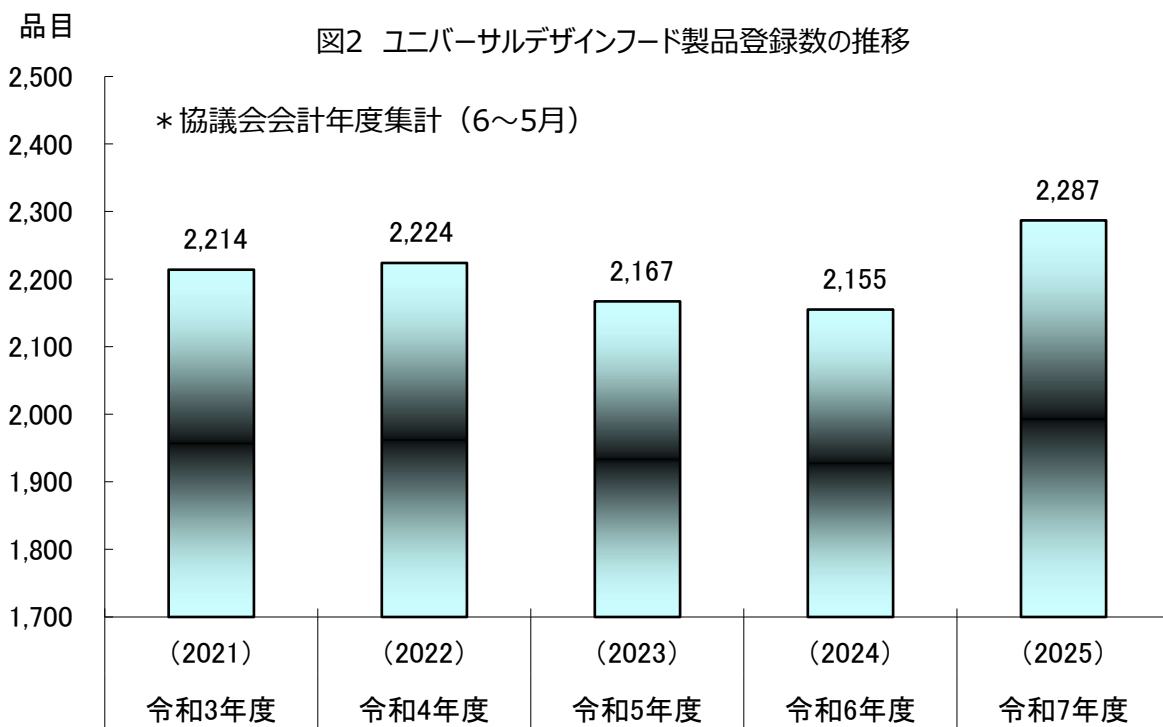
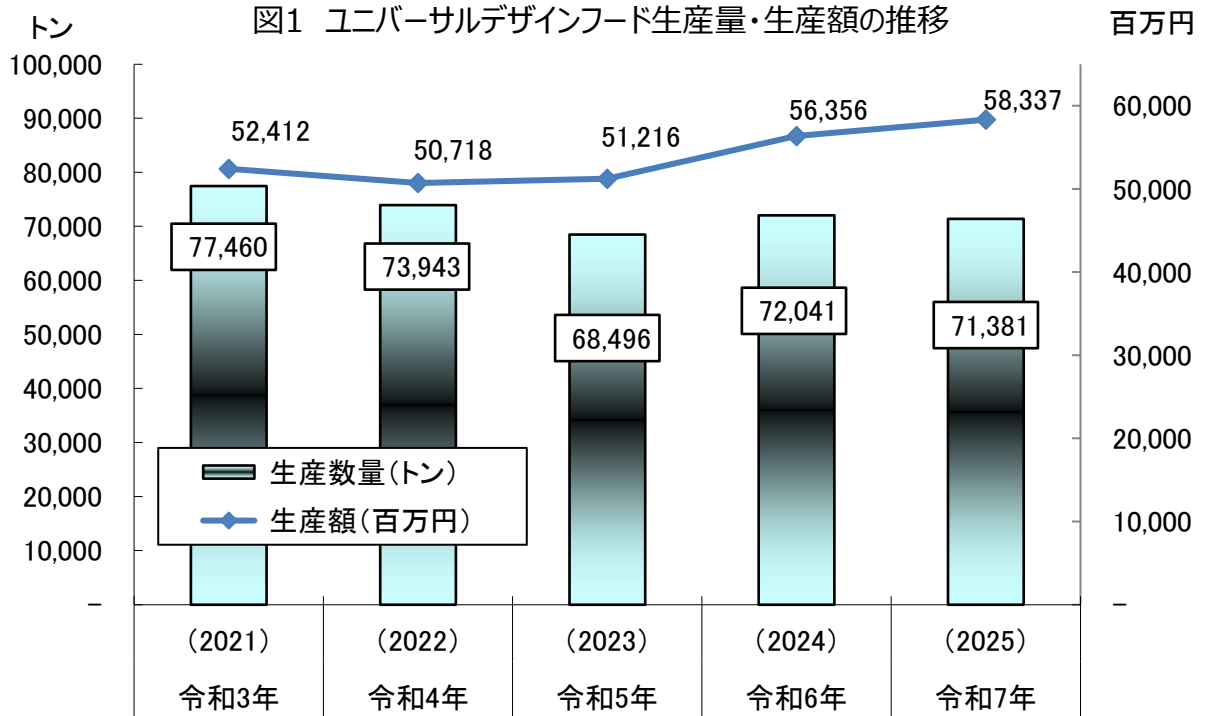
		令和4(2022)年		令和5(2023)年		令和6(2024)年		令和7(2025)年	
		数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)
区分	1 容易にかめる	48,838	23,295	44,004	23,210	46,658	25,672	46,493	26,410
	2 歯ぐきでつぶせる	6,472	4,902	5,871	4,918	6,124	5,539	6,182	5,959
	3 舌でつぶせる	9,972	11,355	10,228	12,506	11,133	13,886	10,264	13,930
	4 かまなくてよい	6,600	6,502	6,853	6,711	6,615	7,303	6,983	8,140
とろみ		2,061	4,664	1,540	3,871	1,512	3,956	1,459	3,898
合計		77,460	52,412	68,496	51,216	72,041	56,356	71,381	58,337
タイプ別	乾燥	2,227	5,222	1,651	4,255	1,659	4,477	1,577	4,377
	冷凍	19,405	17,533	18,320	19,088	19,318	20,682	21,075	23,060
	常温	52,311	27,964	48,525	27,873	51,064	31,198	48,729	30,901
合計		73,943	50,718	68,496	51,216	72,041	56,356	71,381	58,337
販売先別	市販	45,622	23,091	41,721	22,706	43,032	24,404	40,031	23,558
	業務	28,321	27,628	26,776	28,510	29,009	31,952	31,350	34,780
合計		73,943	50,718	68,496	51,216	72,041	56,356	71,381	58,337

※暦年集計  
※金額は出荷ベース

### ユニバーサルデザインフード令和7(2025)年生産量・金額前年対比

		令和7(2025)年		令和6(2024)年		25/24年対比		25/23年対比	
		数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
区分	1 容易にかめる	46,493	26,410	46,658	25,672	99.6	102.9	105.7	113.8
	2 歯ぐきでつぶせる	6,182	5,959	6,124	5,539	100.9	107.6	105.3	121.2
	3 舌でつぶせる	10,264	13,930	11,133	13,886	92.2	100.3	100.3	111.4
	4 かまなくてよい	6,983	8,140	6,615	7,303	105.6	111.5	101.9	121.3
とろみ		1,459	3,898	1,512	3,956	96.5	98.5	94.8	100.7
合計		<b>71,381</b>	<b>58,337</b>	<b>72,041</b>	<b>56,356</b>	<b>99.1</b>	<b>103.5</b>	<b>104.2</b>	<b>113.9</b>
タイプ別	乾燥	1,577	4,377	1,659	4,477	95.1	97.8	95.5	102.9
	冷凍	21,075	23,060	19,318	20,682	109.1	111.5	115.0	120.8
	常温	48,729	30,901	51,064	31,198	95.4	99.1	100.4	110.9
合計		<b>71,381</b>	<b>58,337</b>	<b>72,041</b>	<b>56,356</b>	<b>99.1</b>	<b>103.5</b>	<b>104.2</b>	<b>113.9</b>
販売先別	市販	40,031	23,558	43,032	24,404	93.0	96.5	96.0	103.8
	業務	31,350	34,780	29,009	31,952	108.1	108.8	117.1	122.0
合計		<b>71,381</b>	<b>58,337</b>	<b>72,041</b>	<b>56,356</b>	<b>99.1</b>	<b>103.5</b>	<b>104.2</b>	<b>113.9</b>

※本統計は日本介護食品協議会会員企業の「ユニバーサルデザインフード」生産統計です。介護食品全体の市場規模を表すものではありません。





# 日本介護食品協議会

ユニバーサルデザインフード

## ニュースリリース



令和 8 (2026) 年 6 月 吉日  
日本介護食品協議会

### <参考資料>

日本介護食品協議会会員企業は、食べやすさに配慮した食品を以下のように区分し、ユニバーサルデザインフード・ロゴマークとともにパッケージに表示しています。

### ●UDF (ユニバーサルデザインフード) 区分表

区分	容易にかめる ユニバーサルデザインフード	歯くきでつぶせる ユニバーサルデザインフード	舌でつぶせる ユニバーサルデザインフード	かまなくてよい ユニバーサルデザインフード
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安	ごはん ごはん～やわらかごはん	やわらかごはん～全がゆ	全がゆ	ペーストがゆ
	たまご 厚焼き卵	だし巻き卵	スクランブルエッグ	やわらかいわんご(具なし)
肉じゃが	やわらか肉じゃが	具材小さめやわらか肉じゃが	具材小さめさらやわらか肉じゃが	ペースト肉じゃが
調理例(ごはん)				
物性規格	かたさ上限値 N/mf	5×10 <sup>5</sup>	5×10 <sup>4</sup>	5×10 <sup>3</sup>
	粘度下限値 mPa·s			ソル:1×10 <sup>4</sup> ゲル:2×10 <sup>4</sup> ソル:1500



[UDF基準規格] そのままの状態では「容易にかめる」～「かまなくてよい」のかたさに当てはまらないが、水分や温度など食事の際に条件が加わることで、各区分のいずれかと同等のかたさ、食べやすさとなる食品

※「ソル」とは、液体、もしくは固形物が液体中に分散しており、流動性を有する状態をいう。「ゲル」とは、ソルが流動性を失いゲリー状になった状態をいう。

### ●とろみ調整食品のとろみの目安表示例

#### 【とろみの目安の表示例】

とろみの強さ	++++	+++	++	+
とろみのイメージ	フレンチドレッシング状	とんかつソース状	ケチャップ状	マヨネーズ状
イメージ図				
使用量の目安	← 1g →		← 2g →	

水・お茶100mlあたり

※UDFについてはこちらのリンクからもご覧ください。

<https://www.udf.jp/outline/udf.html>

### ●7月11日は「UDF (ユニバーサルデザインフード) の日」

7月11日は、2003年にユニバーサルデザインフード(UDF)の名称とロゴマークが商標登録を受けた日です。

本会では、この日を記念して2017年に「UDF(ユニバーサルデザインフード)日」といたしました。

#### ユニバーサルデザインフード 7月11日はUDFの日



7月11日は、2003(平成15)年にユニバーサルデザインフード(UDF)の名称とロゴマークが商標登録を受けた日です。

